

東京都心部における河川の消失と道路・下水道との関わりに関する考察

日本大学理工学部 学生会員 ○青木 佑太

日本大学理工学部 正会員 吉川 勝秀

1. はじめに

江戸時代は隅田川を中心とした運河、水路が整備され、各地からの物資は、運河を通じて江戸の町に運ばれていた。しかし時代が進むにつれ、汚染された河川は、蓋をされ、増加する交通需要の対策として道路となり消失した河川も多い。

本研究では、河川の消失と道路、下水道との関係について考察した。そして河川の再生について検討した。

2. 高速道路建設当時の河川に対する方針と河川の消失

河川・運河消失に関して、首都高速道路建設の基本方針を調査した。

首都高速道路は、東京都市内の増加する自動車交通量から都市内の交通量増加による問題を緩和するために計画された(図-1)。その建設にあたっての建設省の基本方針では、①既成市街地、特に首都中心部における自動車交通の輻輳を緩和し、一般道路の効率化を図る。②一般街路と分離して、あらゆる交通機関と平面交叉をしない公共的都市高速道路を建設する。③路線の選定にあたっては、市街地の土地利用を考慮し、家屋の密集地を避け、不利用地、治水利水上支障のない河川、運河、やむを得ざる場合には高幅員(40m)以上の道路上に設置し、防火建築地帯の屋上の利用も考慮する¹⁾となっている。この方針の下で、路線選定において、河川空間が建設用地として積極的に利用された。河川が高速道路に利用された区間を図-2に示した。また、写真-1、2に日本橋川と神田川で道路に占用された川の現状を示した。

3. 下水道計画からみる河川方針と河川の消失

河川と下水道の関係については、下水道整備に関する東京都市計画河川下水道調査特別委員会委員長報告(以下昭和36年答申)が大きく関係している。そこでは、水源をもつ以外の河川は暗渠化し下水道幹線とし整備し暗渠上部は管理上支障がない限度で公共的利用するという方針が示された。昭和36年答申におい

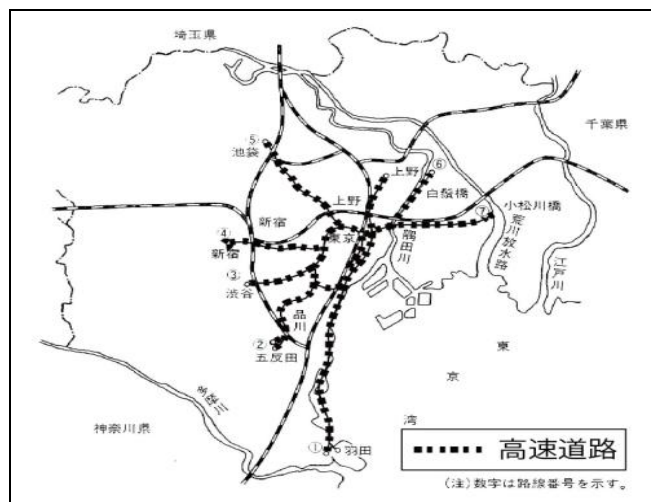


図-1 当初の東京都市計画都市高速道路網¹⁾

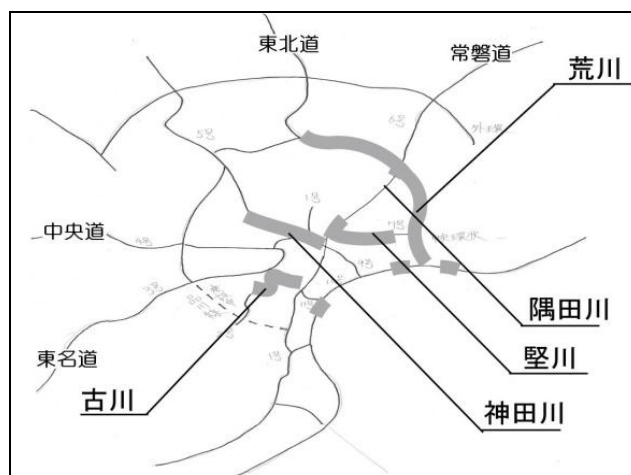


図-2 河川に架かる高速道路



写真-1 日本橋川

写真-2 神田川

て下水道幹線として利用する対象河川は呑川、九品仏川、立会川、北沢川、鳥山川、蛇崩川、目黒川、渋谷川、古川、桃園川、長島川、前堰川、小松川、境川、東支川、田柄川である(図-3²⁾³⁾⁴⁾)。

当時の河川は、汚染が進み、悪臭を放つ最悪の状況で

キーワード 河川消失、高速道路、下水道、

連絡先：日本大学理工学部社会交通工学科7号館737教室、TEL：047-469-5228、Email：trpt8003@trpt.cst.nihon-u.ac.jp

